

2023 年 12 月 21 日
FD・SD 推進委員会 学生懇話会 WG

2023 年度学生懇話会 報告書

【開催日】2023 年 12 月 5 日（火）12:10～12:55（図書館 L301）

【グループ】

「外国語教育」：学生 8 名参加 / 仏 4 年（4 名）、英 4 年、国 3 年、仏 3 年（2 名）

「キャリア教育」：学生 7 名参加 / 国 4 年、見 4 年（2 名）、国 3 年（2 名）、初 3 年、見 2 年

テーマ① 大学での外国語教育（第二外国語）

【進行者】越 森彦（フランス語フランス文学科）

【記録者】教務課 青木

第二外国語を選んだ理由について

<中国語>

好きなタレントが中国語を勉強していたことがきっかけとなった。

<ドイツ語>

・高校時代や大学受験で英語は学んできたため、大学では英語以外の別の言語を学びたい気持ちが強かった。フランス語とドイツ語との違いを勉強したかった。

・英語があまり好きではなく、オーストリアに行きたい気持ちがあった。先生もよかった。
*なお、仏文科の学生は専門科目であるフランス語がすでに相当の学習時間を要するため、第二外国語としては英語を選択することが推奨されており、ほとんどの学生は英語を履修している。

授業について

<肯定的>

・一緒に映画を見て感想を共有し、コミュニケーションツールとしての外国語だけでなく、言葉の背景にある文化を知ることができたことがよかった。

・映画のセリフのプリントに空欄があり、聴きながら自分で埋めていくという授業が印象に残った。

・英語の授業ではプレゼンやディスカッションなど、自分で動かないと何も始まらないものが多かった。英文の 4 コースのうち、「比較文化・文学」を取っていたが、授業は全て英語で行っていた。聴くだけでなくその後自分で英語を実際に使うようにすれば、眠くなるよう

なこともなくなると思う。

<否定的>

・「高校とは違う」と感じることを期待して大学に入ったが、英語については高校とあまり変わらなかった。普段自分では選ばないようなジャンルを扱った教材から学びたかった。オーソドックスな方法ではなく、その先生ならではの言語の触れ方が学びにはなると思う。

・退屈する学生は授業で教材として使われる映像資料がなんであれ退屈する。TED を使う授業もあるが、それなら一人でも見られる。授業では、今まで自分の知らなかった、その教員ならではの教材を見たい。

・授業で求められているアクティビティが簡単すぎることもある。道案内の練習をさせられるとは思っていなかった。

・文法は高校までやってきたので、文法の説明と練習問題だけの 90 分は長く感じた。コミュニケーションは 1 年の時はオンラインだったため、お互いにカメラもつけずに知らない人と真っ黒な画面相手に話すことに抵抗があり、苦痛だった。

・自分たちの代は 1 年次がオンラインだったため、2 年次になってからフランス語の小テストなどを受けるのがとても難しかったが、今の 1 年生はほぼ対面でやっているはずなので、理解しやすいのではないか。

・中国語の授業で昔のテレビみたいな設備があり、見にくかった。中国語は先生によって求められるレベルが違い、自分が受けた先生は厳しめで月曜日に学んだものは木曜日に暗唱しなければならなかった。皆の前で読まなければいけないので一層緊張した。とはいえ、テストは別にあったが、漢字なので、ある程度点数は取れるし、出席もしていたので特に問題はなかった。今も同じ先生の中国語を受けているが、必修の時と違ってやさしめである。

マニアックな材料を使うと学生は退屈してしまうのではないかと思い、流行りものを使おうと考えますが、教員の研究者としての個性を生かした教材がよいことが分かった。

大学に期待する授業

- ・面白さ。プレゼンなど主体的に動ける方法で。
- ・楽しみながら学べること。座学では面白くない。
- ・英語はレベル分けされているので、できるクラスでは英語を学ぶのではなく、英語を通じて何かを学ぶのがよい。

大学の授業の改善点

・留学に行っていた時に、現地のネイティブの人が使う言葉を習った。第 2 外国語では完全に話せるようになるのは難しいかもしれないが、実際の現地で日常的に使われている言葉を習えることで、言語に対する興味も出るし、使ってみようという気にもなる。高校では

(大学受験の縛りがあるため) くだけた表現はなかなか教えてもらえないので、そのような表現を教えてもらえると大学の授業という感じがする。

- ・勉強してきたことが活かせる場が授業中にもっとあれば自信にもなる。教室の人数が多かったので授業の時間配分の問題もある。(どうしても 1 人あたりの話せる時間や機会には限りがある。)

- ・グループワークやペア練習がやりやすいので、椅子に机がついているタイプがよいと思う。長机は移動がしやすいが、講義を聴くだけの時は逆に使いづらい。レジナホールにあるキャスター付きのものなどもよい。

- ・第 2 外国語はみんなが取りたいものではない。3 種類の中からしか選ばなければならないため、必ずしも自分の選んだ言語に興味があるとは限らない。そういう人のためにも、興味を持てるような授業であれば第 2 外国語の意味も出てくるのではないか。

テーマ② 大学でのキャリア教育

【進行者】 やたみほ（児童文化学科）

【記録者】 教務課 森田

【オブザーバー】 キャリア支援課長 大葉

就活の状況について

<4年生> 3人全員就職先が決まっている

・食品（お惣菜）関係…コロナ禍で食事に興味を持ち、食品関係に就職したいと考えた。就活を始めたのは遅かったが、キャリア支援課で何度も面接をしてもらったお陰で内定をもらえた。

・調布市役所…キャリア支援課で面接をしてもらいながら進む道を見つけていった。

・機械系の商社…キャリア支援課は利用せず、外部の説明会を受けていた。

<2、3年生>

一度会社の面接を受けた、学内のセミナーを受けた、国家公務員を目指して勉強中、インターンに2箇所通っている

4年生が内定先について詳しく話し、「キャリア支援課にお世話になったので、お礼が言いたくて参加した。」と言ってくれた。また、国文科の3年生が「同じ学科で就職先が決まった先輩と初めて話せた」と嬉しそうに言ってくれたことが印象的であった。

キャリア支援課の利用について

<配信の内容>

適切であり役に立った

全員、日々チェックしていると回答している

<発信回数>

他のメールに埋もれてしまっていて見るのが追いつかないため、少し多いと感じる。

試験期間中は回数を控えるなど学生のスケジュールを考えて発信してもらいたい。

<発信時間>

通学時間が長いいため、朝8時半くらいに発信してもらえたら助かる

寝る前に見ることが多いが、ためてしまうことが多い。

<面談>

空き時間に予約することができ、利用しやすかった

アルバイトや就活で忙しく、一度も面談をしたことがなかった

<外部のアプリとの比較>

外部の就活アプリを使った場合、知りたい情報のみ受け取ることができて便利であるが、OG 訪問については学内のキャリア支援課の方が安心して利用できる。

情報は役立っているが、発信する回数を見直した方が良い。「ジャンルを選ぶことができ、興味のある職種の情報のみ受け取れるシステム」があったらよいと思った。面談の利用頻度については、個人差がここまであるとは知らなかった。時間割や個々のスケジュールに左右されるが、平等に利用できるようなシステムがあるとよいのではないだろうか。

大学の授業「キャリア研究」について

働き方については学べたが、いつものように就活を進めたらよいかは分からなかった

学科ごとに内容が違うということもあり、あまり情報が得られなかった。もう少し時間があつたら色々聞けたかもしれない。

～質問タイム～

「会社の面接で想定外の質問をされた時、どのようにこたえたらよいですか？」

- ・沈黙を続けずにその場で思いついたことを話すようにした。想定外の質問はその人となり
が試されることなので、普段から面接の練習をしておいて良かったと思った。
- ・どんな質問がきても応じられるように会社について念入りに調べ、その会社に行きたいと
いう熱意が伝わるようにした。
- ・「少し考えさせてください」と許可を得てもよい（キャリア支援課）

「学内のセミナーはオンラインと対面どちらがよい？」（キャリア支援課）

全員一致で「対面がよい」

短い時間ではあったが、後半に質問が出て打ち解けた雰囲気になれたのはよかった。4年生
同士趣味が合うことが分かり、楽しそうに話している姿を見ることができ、微笑ましかった。
また、3年生が「キャリア支援課にいつでも行ってよいのですか？」と大葉さんに聞き、「い
つでもどうぞ」という返答に安心していただけを見て、キャリア支援課に対して気後れしてい
る学生のフォローが今後もできればよいと思った。